

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	武家屋敷公開管理事業費			
担当課係名	文化財 課	文化財 係	作成者	山形幸子
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち		総合計画のページ 100
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財の保護		
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成		
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	4 目 文化財保護費
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規 / 継続の区分		継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	文化財保護法			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民、国民のため、武家屋敷を
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	武家屋敷を保存し、且つ、その活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献する。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	歴史と文化を誇る武家屋敷の公開、管理を実施する。

【事務事業の推移】

(単位：千円)

		項 目	単 位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	公開武家屋敷数	軒	6	6	
	成果指標	入場者数	人	242,094	298,762	
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費(人件費を除く)(A)			5,547	6,481	
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
		一般財源		5,547	6,481	
	人 件 費 (B)			7,853	8,071	
		職 員 数		1.0	1.0	
		職員平均人件費		7,853	8,071	
(A) + (B) 投下コスト			13,400	14,552		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			2,233,333	2,425,333	
	市民1人当たりのコスト(円)			420	464	

【事務事業の今までの成果】

昭和40年代後半から、県文化財指定・国の保存地区選定とともに、その価値が認められ公開事業が行われている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	関連の他事業（重伝建、重文等）は補助事業で実施しているが、本事業は単独の事業である。
事業に対する市民の意見（事業に対する期待、要望、苦情等）	市民及び観光客に無料で公開している。施設においては関連の団体に広く活用されている。観光化されずに落ち着いた雰囲気を残している。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	民営化イコール商業化という危機感がある。伝建群が商業化により武家町の風情を失いつつある現状で、市で管理を行っている4つの武家屋敷においては、その価値を損なわず、本来の武家屋敷としての姿を後世に遺していけると判断する。
	B 見直しの上で継続（実施）	
	C 大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	武家屋敷の公開を行うことによって、文化財としての貴重さやその歴史的な意義を認識していただくためにも必要な事業と考える。

一次評価診断図

